

# 「“是～的”構文における“是”・“的”の位置変化による焦点の移動」

呉 幸 芬

## はじめに

周知のように、漢語語法では“是”は判断文に用いられる述語動詞であり、主に述語（謂語）を説明し、判断又は強調する目的で使われる動詞である。“的”にはいろいろな役割があり、構造助詞として用いられるほか、語気助詞として用いられてもいる。さらに動詞や目的語、連体修飾語と結びついて、名詞句を構成することもある。しかし“是”と組み合わせられて“是～的”構文になると“的”はほとんどの場合文末に置かれて、肯定や強調を表す語気助詞となる。

今まで、先行論では“是～的”構文の構造や意味や文型などについて様々な議論が繰り返されてきている。しかし“是～的”構文に“是”・“的”の位置変化により焦点の移動がどのように捉えられているか、また“是”・“的”の語法的機能や意味はどのように変化するのかについての言及は少ない。そこで、従来の諸説とは異なる視点からを考察してみようと考えている。

本稿では“是～的”構文において“是”・“的”の位置変化によりどの部分に焦点が当てられるのか、また“是”・“的”の語法的機能や意味はどのように変化するのかを四言語（閩・台・中・日）を対照分析することによって考察する。

本稿では全ての例文をアクセントのプロミネンスで焦点を表わし、併せて文のイントネーションを記述する。すなわち、以下の例文に示しているように、実際に話す時、主に息の切れ目を「||」で分け、又特に焦点として強調したいところは「#」マークを語の前に記し、語調が上昇されることを表わした。本稿では母語話者によって強調の有無や区切りの有無の弁別があることを示すにとどめ、具体的な音声の実現については、中国語・日本語とも稿を改めて論ずる。「()」は発話によっては、この箇所での息の切れ目となると思われるところである。

尚、参照として台湾閩南語の音声図を最後のページに付加する。

## 1. “是”の位置変化による焦点の移動

本稿の例文は、呉幸芬（2009）においても参照した、鄭良偉（1997）の『台、華語的時空、疑問と否定』p.144から引用した例文を用い、そこで用いられている動詞を入れ替えて分析することにする。

また同時に、日本語では成立する訳文を、台湾閩南語、台湾国語、中国語（普通話）にさらに逆対訳して、それらの文が本来の構文と同一か、どのように異なるかどうかを考察してみる。

## 例

- (1) 是他昨天在這個地方用繩子殺了自己的孩子的。  
(彼が昨日この場所で紐で自分の子供を絞め殺したのだ。)
- (2) 他昨天是在這個地方用繩子殺了自己的孩子的。  
(彼は昨日この場で紐で自分の子供を絞め殺したのだ。)
- (3) 他昨天在這個地方是用繩子殺了自己的孩子的。  
(彼は昨日この場で紐で自分の子供を絞め殺したのだ。)
- (4) 他昨天在這個地方用繩子殺了是自己的孩子的。  
(彼が昨日この場で紐で絞め殺したのは自分の子供だ。)

Sī i chah-hng tī-chit-ê-só-chāi iōng-soh-á chhui-sí ka-kī ê kín-á e

1. 是 | # 伊 | 昨昏 | tī- 這個所在 | 用索仔 | 摧死(子) | 家己 | 的 | 囡仔 | 的。

Chah-hng tī-chit-ê-só-chāi sī i iōng-soh-á chhui-sí ka-kī ê kín-á e

2. | 昨昏 | tī- 這個所在 | 是 | # 伊 | 用索仔 | 摧死(子) | 家己 | 的 | 囡仔 | 的。

Chah-hng tī-chit-ê-só-chāi iōng-soh-á chhui-sí ka-kī ê kín-á e sī-i

- (1) (閩) 3. | 昨昏 | tī- 這個所在 | 用索仔 | 摧死(子) | 家己 | 的 | 囡仔 | 的 | # 是伊。

Shih-tā zuó-tiān zài-jhèi-ge-dì-fāng yòng-shéng-zih lè-sīh zih-jī-hái-zih-de

1. # 是他 | 昨天 | 在這個地方 | 用繩子 | 勒死(了) | 自己孩子的。

Zuó-tiān zài-jhèi-ge-dì-fāng shih-tā yòng-shéng-zih lè-sīh zih-jī-hái-zih-de

2. | 昨天 | 在這個地方 | # 是他 | 用繩子 | 勒死(了) | 自己孩子的。

Zuó-tiān zài-jhèi-ge-dì-fāng yòng-shéng-zih lè-sīh zih-jī-hái-zih-de shih-tā

- (台) 3. | 昨天 | 在這個地方 | 用繩子 | 勒死(了) | 自己孩子的 | # 是他。

Shi-tā zuó-tiān zài-zhèi-ge-dì-fāng yòng-shéng-zi lè-sǐ zì-jī-hái-zì-de

1. # 是他 | 昨天 | 在这个地方 | 用绳子 | 勒死(了) | 自己孩子的。

Zuó-tiān zài-zhèi-ge-dì-fāng shi-tā yòng-shéng-zi lè-sǐ zì-jī-hái-zì-de

2. | 昨天 | 在这个地方 | # 是他 | 用绳子 | 勒死(了) | 自己孩子的。

Zuó-tiān zài-zhèi-ge-dì-fāng shi-tā yòng-shéng-zi lè-sǐ zì-jī-hái-zì-de shi-tā

- (中) 3. | 昨天 | 在这个地方 | 用绳子 | 勒死(了) | 自己孩子的 | # 是他。

彼が昨日この場所で紐で自分の子供を絞め殺したのだ。

1. | # 彼が昨日(この場所で)(紐で)(自分の子供を)絞め殺したのだ。|

2. | 昨日 | この場所で | 自分の子供を | 紐で | | # 彼が絞め殺したのだ。|

- (日) 3. | 昨日( | )この場で( | )紐で( | )自分の子供を絞め殺したのは | # 彼だ。|

日本語の例文に合わせて、閩・台・中三言語のそれぞれ対訳文を挙げてみることにした。その結果、たとえ主語の位置が移動しても、“是”が主語の前に置かれれば、情報焦点は施事者(主語)であることは変わらないと判断できる。

- I chah-hng sī tī-chit-ê-só-chāi iōng-soh-á chhui-sí ka-kī ê kín-á e  
 (2) (閩) 伊|昨昏|是|#ī 這個所在|用索仔|摧死(子)|家己|的|囡仔|(的)。  
 Tā-zuó-tiān shih zài-jhè-ge-dì-fāng yòng-shéng-zih lè-sīh zih-jī-de-hái-zih de  
 (台) 他|昨天|是|#在這個地方|用繩子|勒死(了)|自己的孩子|(的)。  
 Tā-zuó-tiān shì zài-zhèi-ge-dì-fāng yòng-shéng-zì lè-sǐ zì-jǐ-de-hái-zì de  
 (中) 他|昨天|是|#在这个地方|用绳子|勒死(了)|自己的孩子|(的)。  
 彼は昨日この場で紐で自分の子供を絞め殺したのだ。  
 (日) [彼は|昨日|自分の子供を|#この場で紐で絞め殺したのだ。]

- I chah-hng tī-chit-ê-só-chāi sī iōng-soh-á chhui-sí ka-kī ê kín-á e  
 (3) (閩) 伊|昨昏|tī- 這個所在|是|#用索仔|摧死(子)|家己|的|囡仔|(的)。  
 Tā-zuó-tiān zài-jhèi-ge-dì-fāng shih yòng-shéng-zih lè-sīh zih-jī-de-hái-zih de  
 (台) [他|昨天|在這個地方|是|#用繩子|勒死(了)|自己的孩子|(的)。  
 Tā-zuó-tiān zài-zhèi-ge-dì-fāng shì yòng-shéng-zì lè-sǐ zì-jǐ-de-hái-zì de  
 (中) [他|昨天|在这个地方|是|#用绳子|勒死(了)|自己的孩子|(的)。  
 彼は昨日この場で紐で自分の子供を絞め殺したのだ。  
 [彼は|昨日|この場で|#紐で自分の子供を絞め殺したのだ。]  
 (日) [彼は|昨日|この場で|自分の子供を|#紐で絞め殺したのだ。]

- I chah-hng tī-chit-ê-só-chāi iōng-soh-á chhui-sí ê sī ka-kī ê kín-á e  
 1. 伊|昨昏|tī- 這個所在|用索仔|摧死(子)的|是|#家己|的|囡仔|(的)。  
 Sī i chah-hng tī-chit-ê-só-chāi iōng-soh-á ká ka-kī ê kín-á lâi chhui-sí ê  
 (4) (閩) \*2. 是|#伊|昨昏|tī- 這個所在|用索仔|# ká|家己|的|囡仔|來|摧死|(的)。  
 Tā zuó-tiān zài-jhèi-ge-dì-fāng yòng-shéng-zih lè-sīh de-shih zih-jī-de-hái-zih de  
 1. 他|昨天|在這個地方|用繩子|勒死(了)|的是|#自己的孩子|(的)。  
 Shih-tā zuó-tiān zài-jhèi-ge-dì-fāng yòng-shéng-zih bā zih-jī-de-hái-zih gěi lè-sih de  
 (台) \*2. #是他|昨天|在這個地方|用繩子|#把|自己的孩子|#給|勒死|(的)。  
 Tā zuó-tiān zài-zhèi-ge-dì-fāng yòng-shéng-zì lè-sǐ-de-shì zì-jǐ-de-hái-zì de  
 1. 他|昨天|在这个地方|用绳子|勒死(了)的是|#自己的孩子|(的)。  
 Shì-tā zuó-tiān zài-zhèi-ge-dì-fāng yòng-shéng-zì bā zì-jǐ-de-hái-zì gěi lè-sǐ de  
 (中) \*2. #是他|昨天|在这个地方|用绳子|#把|自己的孩子|#給|勒死|(的)。  
 彼が昨日この場で紐で絞め殺したのは自分の子供だ。  
 1. [彼が(|)|昨日(|)|この場で(|)|紐で(|)|絞め殺したのは|#自分の子供だ。]  
 (日) 2. [彼は|昨日|この場で|(|紐で|)|#自分の子供を絞め殺したのだ。]

例文(4)では、本来、漢語1.で目的語焦点は「～のだ」文ではなく「(～のは)(～だ)」しか使えないのに対して、日本語1.と2.ではどちらもあり得る。だが、日本語に合わせて対訳してみると、漢語の文2.は「是～的」構文を使った上に「把～給」構文を用いないと正しい文とはならない。そうすると漢語2.の文は単純に「是～的」構文であるかどうか疑問となる。

漢語では、この例文は別に違和感はないのだが、たとえ成立したと考えれば、焦点は本来の動作の受け手だけではなく、施事者・受け手・手段の三か所になると考えられる。しかしながら「是～的」構文に主に強調されたい本来の重点的な一つの焦点が何処にあるかが混同されることが危惧される。

I sī chah-hng tī-chit-ê-só-chāi iōng-soh-á chhui-sī ka-kī ê kín-á e

1. {伊 是} {# 昨昏} {tī- 這個所在} {用 索仔} {擻死(子)} {家己} 的 {囡仔} (的)。

I tī-chit-ê-só-chāi iōng-soh-á kā ka-kī ê kín-á lâi chhui-sī ê-sī chah-hng

- (5) (閩) \*2. 伊 {tī- 這個所在} {用 索仔} {kā 家己} 的 {囡仔} 來 {擻死} 的 是 {# 昨昏}

Tā shih zuó-tiān zài-jhèi-ge-dì-fāng yòng-shéng-zih lè-sīh zih-jī-de-hái-zih de

1. {他} 是 {# 昨天} {在 這個地方} {用 繩子} {勒死(了)} {自己的孩子} (的)。

Tā zài-jhèi-ge-dì-fāng yòng-shéng-zih bā zih-jī-de-hái-zih gěi lè-sīh de-shih zuó-tiān

- (台) \*2. 他 {在 這個地方} {用 繩子} 把 {自己的孩子} 給 {勒死} 的 是 {# 昨天}。

Tā shì zuó-tiān zài-zhèi-ge-dì-fāng yòng-shéng-zì lè-sī zì-jī-de-hái-zì de

1. {他} 是 {# 昨天} {在 这个地方} {用 绳子} {勒死(了)} {自己的孩子} (的)。

Tā zài-zhèi-ge-dì-fāng yòng-shéng-zì bā zì-jī-de-hái-zì gěi lè-sī de-shì zuó-tiān

- (中) \*2. 他 {在 这个地方} {用 绳子} # 把 {自己的孩子} # 给 {勒死} 的 是 {# 昨天}。

彼がこの場で自分の子供を絞め殺したのは昨日だ。

1. {彼が} {この場で} ( { } ) 紐で ( { } ) 自分の子供を { } 絞め殺したのは { } {# 昨日だ}。

- (日) 2. {彼が} {この場で} ( { } ) 紐で ( { } ) 自分の子供を { } {# 昨日絞め殺したのだ}。

例文(5)は、(4)と同様に、漢語では日本語との対照訳2は「是～的」構文を使った上に「把～給」構文を用いなければならない。従って、文は成立するのだが、「是～的」構文とは言えないと考えられる。

上述した例文(1)から(4)は、鄭良偉(1997)にある“是～的”構文により相応しい別の動詞と入れ替えたものである。(本稿以前は鄭良偉の用いた動詞“殺”をそのまま引用して、対照訳を考慮しながら「殺す」と翻訳した。)

まず動詞について、この例文にある殺害道具は「紐」なので、日本語も中国語も「殺す／殺」という動詞より「絞め殺す／勒死(動詞+結果補語構造)」の方がその動作と状況が、正確且つ生々しく想像されて強調されているのではないかと考えられる。台湾閩南語では「紐」という道具で人を殺す場合には二つの動詞が考えられる。その二つとは“擻死 chhui-sī”<sup>1</sup>と“索死 soh-sī”である。但し“索死 soh-sī”は環のようなものが、何らかの原因で体に巻きつき、手足の自由が奪われて、そのまま絞め殺されたような状況を表す動詞である。あるいは、首や頭に何かはめられて呼吸が妨げられそのまま窒息してしまう状況も考えられる。しかしこれは日本語の品詞で言えば、自動詞のような動詞なので、他殺の場合では加害動作が見えにくくなる。

この5つの例文では手段(道具)は「紐」で、それを被害者の首に回して巻きつけて絞め殺したと考えられ、やはり“擻死 chhui-sī”の方が加害の意図があって、他殺の動作がうまく伝わるのではないと考えられる。そのため“擻死 chhui-sī”という動詞の方が相応しいと思われる。'

次にこの例文で“摧死／勒死”という動詞を使えば、すでにその動作が完了されているので、動詞の後ろに付着し動作完了として表される“了”は省略した方が自然な文になると思われる。勿論そのまま残していても別に違和感はないが、余計なものを付け足したような感じになると思われる。

更に例文（４）に“摧死／勒死”の動詞の後に“的”を加えれば動作の受け手が自分の子供であることが一層強調されるのではないかと考えられる。

例文（５）は筆者が補った例文である。“是”は事件が起きた時間の前に置けば時間が強調されるようになる。同様に四言語に置き換えて対照し、改めて動詞“是”の位置の変化に伴うその文の意味と焦点の相違を考えてみたい。その目的は、文中の焦点は動詞や副詞、目的語の位置によって、微妙なニュアンスの違いが表されるのではないかということをも明らかにしたいからである。

- （１） 是他 （“是”は主語の前に置かれ、動作を起こした仕手（施事者）を強調する。）
- （２） 是在這個地方 （“是”は事件が起きた場所を強調する。）
- （３） 是用繩子 （“是”は事件が起こされた手段／道具を強調する。）
- （４） 是自己孩子 （“是”は動作の受け手（受事者）を強調する。）
- （５） 是昨天 （“是”は事件が起きた時間を強調する。）

上記の５つの例文はいずれも意図的な強調であり、“是～的”構文になると考えられる。その語順は「仕手＋時間＋事件場所＋手段＋受け手」となるが、“是”の場所により、文の焦点が異なる。また三言語とも“是～的”はいずれも省略することができる。但し省略されると普通の陳述文になり、どこに焦点があるかが曖昧で不明になる。しかし、“是”は不可欠の存在で、その後ろの運用修飾語を肯定して強調している。

１～５の例文は一般に文末の“的”は使わない。しかしこのような事件の発生の経緯を説明する場合は、“的”はすでに発生した動作や事柄などを重点に述べる語気を肯定的に強調するのである。

続いてこの５つ例文の日本語構造について述べる。

- （１） 彼が昨日この場所で紐で自分の子供を絞め殺したのだ。
- （２） 彼は昨日この場で紐で自分の子供を絞め殺したのだ。
- （３） 彼は昨日この場で紐で自分の子供を絞め殺したのだ。
- （４） 彼が昨日この場で紐で絞め殺したのは自分の子供なのだ。
- （５） 彼がこの場で自分の子供を絞め殺したのは昨日なのだ。

日本語では「～が（は）～のだ」・「～のは～だ」のような構文は対象、手段、場所などを強調するように形成されている。「のだ」は『日本国語大辞典』第２版第10巻（p.814）によると、事実を確かなものと認めて提示したり、自分の立場を述べたりして、それがある事情や理由にもとづく判断であると、説明されている。

野田春美<sup>2</sup>（1997:15- 6）は「のだ」について次のようにも述べている。

従来「のだ」はその前の部分で表わされる事態を既定のものとして捉える表現であると見なされて

きた。

また小泉保(2007) p.223にも強調構文は「のだ」と関連して、「～のは～だ」という強調構文が用いられると述べている。この場合、「の」と「だ」が分離しているが、英語のIt is ~ that に相当し、この構文は「分裂文」(Cleft sentence)とも呼ばれている。この説は2、で述べる湯氏のものと同様である。

しかし、この5つの例文にある述語動詞「絞め殺した」のは(のだ)の「の」は絞め殺すという動詞を名詞句にするための形式名詞であり、「は」は後に出てくる受事者や時間などを表す述語を一層強調する語句として添加されたものである。従って、最後の肯定・否定の助動詞「だ」とくっつき、いわゆる「～が(は)～のだ」「～のは～だ」も強調構文を述語にする表現方法だと考えられる。

## 2. “是”・“的”の位置変化による焦点の移動

湯廷池(1988) p.131,136,137で述べている漢語語法の統語構造について、ある論点<sup>3</sup>と本節の“是”・“的”の位置変化による焦点の変化という観点が合致しているので、以下は湯氏の論点に従って、本文から例を引用して、四言語に訳して対照分析してみることにする。湯氏はその現像を以下の三種類に分けている。

在國語語法裡，指示信息焦點的句法結構主要有三種：分裂句 分裂變句 準分裂句。

以下「 」内の日本文は筆者訳である。

「(国語の文法では、情報焦点の構文の構造が主に分裂文・核分裂文・準分裂文の3種類に分けられている。)」

- (1) 分裂句 (cleft sentence) – 是用表示判斷的動詞“是”與表示斷定語氣助詞“的”，把一個句子分為兩段：含有“是”的一段代表說話者的信息焦點，其餘一段代表說話者的[預設] (presupposition)。  
「分裂文 (cleft sentence) – は判斷の動詞として用いられている“是”と語気の助詞で1つのセンテンスを2段に分けている。“是”を含むのは”1段の話者の情報の焦点で、残りの1段は話者の假定(前提)とする。)」
- (2) 分裂變句 – 在這變句裡，“的”字不出現於句尾，而出現於述語動詞與賓語名詞之間。句子的信息焦點分別是主語名詞、時間副詞與處所副詞。這些句子成分之成為信息焦點，主要是靠判斷動詞“是”得出現。  
「(核分裂文 – この文では、“的”は文末に現れず、述語の動詞と目的語の名詞の間に現れる。センテンスの情報の焦点が当たっているのは主語の名詞、時間の副詞と場所の副詞である。これらの文が情報の焦点になったのは主に判斷動詞の“是”が現れたためである。)」
- (3) 準分裂句 (pseudo-cleft sentence) – 把從屬子句標誌“的”與判斷動詞“是”安插於動詞與賓語名詞之間，因此也就是把句子分為兩段：前半段代表句子得預設部分，後半段代表句子的信息焦點。  
「(準分裂文 (pseudo-cleft sentence) – 從屬節の標識の“的”と判斷動詞の“是”が動詞と

目的語の名詞の間に配置され、そのためセンテンスが2段に分けられる。前半分句はセンテンスの仮定（前提）とする。後半はセンテンスの情報焦点を代表する。）」

次に、“湯先生二十年前在美國學語言學”という例文を基にして考察を進める。主に判断文として考えられている述語動詞である“是”と、目的語や語気助詞や連体修飾語の付いた“的”の字句を書き入れれば、主語は何になるか、主語が指すところと述語が指すところは同様であるか否か、または文の焦点はどう変わっていくかをみてみる。

- 
- Ttng-se<sup>9</sup> jī-chap-nī(tang)-chêng tī-Bí-kok oh gú-giân-hak
- a. 湯先生 二十年前 在美國 學 語言學。
- Jī-chap-nī(tang)-chêng tī-Bí-kok oh gú-giân-hak-ê(lâng)sī-Thng-se<sup>9</sup>
- b. 二十年前 在美國 學 語言學 的(人) 是 湯先生。 (準分裂句)
- Sī-Ttng-se<sup>9</sup> jī-chap-nī(tang)-chêng tī-Bí-kok-oh-ê gú-giân-hak
- c. \*是 湯先生 二十年前 在美國 學 的 語言學。 (分裂變句)
- Sī-Ttng-se<sup>9</sup> jī-chap-nī(tang)-chêng tī-Bí-kok oh gú-giân-hak- e
- (6) (閩) d. 是 湯先生 二十年前 在美國 學 語言學 的。 (分裂句)
- Tāng-siān-shēng èr-shih-nián- cián zài-měi-guó syué-yŭ-yán-syué
- a. 湯先生 二十年前 在美國 學 語言學。
- Èr-shih-nián-cián zài-měi-guó syué yŭ-yán-syué de-(rén)shih tāng-siān- shēng
- b. 二十年前 在美國 學 語言學 的(人)是 湯先生。 (準分裂句)
- Shih- tāng-siān-shēng èr-shih-nián-cián zài-měi-guó syué-de-yŭ-yán- syué
- c. \*是 湯先生 二十年前 在美國 學的 語言學。 (分裂變句)
- Shih-tāng-siān-shēng èr-shih-nián-cián zài-měi-guó syué-yŭ-yán-syué-de
- (台) d. 是 湯先生 二十年前 在美國 學 語言學 的。 (分裂句)
- Tāng-xiān-shēng èr-shi-nián-qián zài-měi-guó xué yŭ-yán-xué
- a. 湯先生 二十年前 在美國 學 語言學。
- Èr-shi-nián-qián zài-měi-guó xué yŭ-yán-xué de- shi tāng-xiān-shēng
- b. 二十年前 在美國 學 語言學 的(人)是 湯先生。 (準分裂句)
- Shi tāng-xiān-shēng èr-shi-nián-qián zài-měi-guó xué-de-yŭ-yán-xué
- c. \*是 湯先生 二十年前 在美國 學的 語言學。 (分裂變句)
- Shi tāng-xiān-shēng èr-shi-nián-qián zài-měi-guó xué yŭ-yán-xué-de
- (中) d. 是 湯先生 二十年前 在美國 學 語言學 的。 (分裂句)
- a. 湯さんは二十年前にアメリカで言語学を学んだ。
- b. 二十年前にアメリカで言語学を学んだのは湯さんだ。 (分裂文)
- c. 湯さんが二十年前にアメリカで言語学を学んだ。
- (日) d. 二十年前にアメリカで言語学を学んだのは湯さんだ。 (分裂文)
- 
- a. 湯さんは 二十前に 日本で 言語学を学んだ。
- 二十前に 湯さんが 日本で 言語学を学んだ。
- b. 二十前に 日本で 言語学を学んだのは 湯さんだ。
- (日) c. 湯さん(=)こそが二十前にアメリカで言語学を学んだ。
-

例文(6)では主に「対象・人物」を強調したいので a. b. c. d. という四つの文における情報焦点の構文の構造を分けてみることにした。結果、この例文では、台湾閩南語と台湾国語の文の焦点変化が同様であることが判明した。

d. の「分裂句」の文型は、意味においても漢語（閩・台・中）の最も基本的な“是～的”構文に近いことが観察される。

他の構文はいずれも判断動詞である“是”を主語である名詞の前に置けば、文の焦点は主語である対象・人物が強調されていることが判る。

但し c. の場合は“是”は主語である「湯さん」の前に置かれているが、“的”は動詞「学ぶ」の後に付き、名詞「言語学」を修飾し、焦点は本来の「湯さん」ではなく、目的語の「言語学」に当たると考えられる。

漢語（閩・台・中）の c. と d. は“是”・“的”は文の最初と最後に用いられ、主語が無くなり、漢語語法では“無主語文”と呼ばれている。だが、“是”・“的”の位置を変えれば、主述文（主謂句）になれるし、それに意味も変わらないのである。このような文は通常の書面語や丁寧文では滅多に使われない。口語でも特に何かを強調したい時にしか使わないと考えられる。

また例文(6)での漢語（閩・台・中）ではいずれも「～在美国学的～」という仕組みで、“在”を用いてははっきりと場所を強調的に表している。

それに b. の（準分裂句）に“～的是～” “的”は“是”の前に入り、前後が等しい関係にあることや、前が後に分類される関係にあることを意味している。

台湾国語の“的”の後ろに中心語“人”という代詞が付加されると、“的”は名詞を修飾し、焦点の主語である名詞が何であるかが一層分かるようになると考えられる。しかし普通話では通常の会話ではその代詞を用いないのが自然と言われる。<sup>4</sup>

b. の（準分裂句）のような文型は、日本語の「～のは～だ」という強調構文に近いと考えられる。但し小泉保（2007）は「～のは～だ」という強調構文も「分裂文」（Cleft sentence）と呼んでいる。

そこで日本語文を中国語に合わせて翻訳すれば b. と d. は「～のは～だ」という強調構文を述語化する表現となり、その対象を肯定的に断定することができるように変化する。

c. の場合は格助詞「が」に代えて、用言に対する主格を示す対象を強調する。



- (7) Thng-se" jī-chap-nī(tang)-chêng tī-Bí-kok oh gú-giân-hak  
 a. |湯先生| |二十年前| |在美國| 學 |語言學|。  
 Thng-se" tī-Bí-kok oh gú-giân-hak ê- (sī-kan) -sī jī-chap-nī(tang)-chêng  
 b. |湯先生| |在美國| 學 |語言學| 的(時間)是 |#二十年前|。 (準分裂句)  
 Thng-se" sī jī-chap-nī(tang)-chêng tī-Bí-kok-oh ê gú-giân-hak  
 c. \* |湯先生| 是 |#二十年前| |在美國學| 的 |語言學|。 (分裂變句)  
 Thng-se" sī jī-chap-nī(tang)-chêng tī-Bí-kok oh gú-giân-hak- e  
 (閩) d. |湯先生| 是 |#二十年前| |在美國| 學 |語言學| 的。 (分裂句)
- 
- Tāng-siān-shēng èr-shih-nián-cián zài-měi-guó syué yǔ-yán-syué  
 a. |湯先生| |二十年前| |在美國| 學 |語言學|。  
 Tāng-siān-shēng zài-měi-guó syué yǔ-yán-syué de (shíh-jiān)-shih èr-shih -nián-cián  
 b. |湯先生| |在美國| 學 |語言學| 的(時間)是 |#二十年前|。 (準分裂句)  
 Tāng-siān-shēng shih èr-shih-nián-cián zài-měi-guó syué-de-yǔ-yán-syué  
 c. \* |湯先生| 是 |#二十年前| |在美國| 學的(語言學)|。 (分裂變句)  
 Tāng-siān-shēng shih èr-shih-nián- cián zài-měi-guó syué yǔ- yán- syué-de  
 (台) d. |湯先生| 是 |#二十年前| |在美國| 學 |語言學| 的。 (分裂句)
- 
- Tāng-xiān-shēng èr-shí-nián-qián zài-měi-guó xué yǔ-yán-xué  
 a. |汤先生| |二十年前| |在美国| 学 |语言学|。  
 Tāng-xiān-shēng zài-měi-guó xué yǔ-yán-xué de-shì èr-shí-nián-qián  
 b. |汤先生| |在美国| 学 |语言学| 的(时间)是 |#二十年前|。 (準分裂句)  
 Tāng-xiān-shēng shì èr-shí-nián-qián zài-měi-guó xué-de-yǔ-yán-xué  
 c. \* |汤先生| 是 |#二十年前| |在美国| 学的(语言学)|。 (分裂變句)  
 Tāng-xiān-shēng shì èr-shí-nián-qián zài-měi-guó xué yǔ-yán-xué de  
 (中) d. |汤先生| 是 |#二十年前| |在美国| 学 |语言学| 的。 (分裂句)
- 
- a. 湯さんは20年前にアメリカで言語学を学んだ。  
 b. 湯さんがアメリカで言語学を学んだの(時間)は20年前だ。 (分裂文)  
 c. 湯さんは正しく20年前にアメリカで言語学を学んだ。  
 (日) d. 20年前に湯さんはアメリカで言語学を学んだのだ。
- 
- b. |湯さんが(| |) アメリカで(| |) 言語学を学んだの(時間)は| |#20年前だ。| (分裂文)  
 (日) c. |湯さんは| |#正しく| = |#20年前に| アメリカで言語学を学んだ|。

例文(7)では、陳述文に事柄が起きた時間(二十年前に)を強調文型に代えてみることにした。「二十年前」という時間は「是」の後ろに配置され、文の焦点になっている。

その結果、漢語文(閩・台・中)ではb.とd.は例文(6)において説明したように、確実に焦点は時間(二十年前に)となる。

但しc.の文型では「的」を目的語の「言語学」の前に用いると微妙なニュアンスの違いが生じて、語順が前後倒置になると考えられるので、むしろ目的語の「言語学」を省略して、「的」を語尾助詞とし、述語に対する肯定的な判断として用いた方が良いと考えられる。しかもこのような語順は台湾国語と台湾閩南語では使われない。

(この“的”が目的語の前後に位置することは別章で述べることにする。)

日本語文の c. では、場所の前に「正しく」という副詞を付加したほうが、疑いの余地も無いほど、明らかにそう判断されることを表わすことができる。

d. の場合は、漢語 d. の対照訳にすれば、起きた「時間」は文の真ん中に置かれて強調文にならないので、文の前に置いて接頭語として働かせる方が時間（二十年前に）を強調することができる。やはり日本語の場合は、文の前か後ろに強調したいものを置いたほうがより効果的に強調されると考えられる。

---

Thng-se<sup>n</sup> jī-chap-nī(tang)-chêng tī-Bí-kok oh gú-giân-hak

a. {湯先生} {二十年前} {在美國} 學 {語言學}。

Thng-se<sup>n</sup> jī-chap-nī(tang)-chêng oh gú-giân-hak ê-(sô-chāi) sī tī-Bí-kok

b. {湯先生} {二十年前} 學 {語言學} 的(所在)是 { # 在美國}。 (準分裂句)

Thng-se<sup>n</sup> jī-chap-nī(tang)-chêng sī tī-Bí-kok-oh ê gú-giân-hak

c. {湯先生} {二十年前} 是 { # 在美國} 學 的 {語言學}。 (分裂變句)

Thng-se<sup>n</sup> jī-chap-nī(tang)-chêng sī tī-Bí-kok oh gú-giân-hak e

(8) (閩) d. {湯先生} {二十年前} 是 { # 在美國} 學 {語言學} 的。 (分裂句)

Tāng-siān-shēng èr-shíh-nián-cián zài-měi-guó syué yǔ-yán-syué

a. {湯先生} {二十年前} {在美國} 學 {語言學}。

Tāng-siān-shēng èr-shíh-nián-cián syué yǔ-yán- syué de-(dì fāng)-shíh zài-měi guó

b. {湯先生} {二十年前} 學 {語言學} 的(地方)是 { # 在美國}。 (準分裂句)

Tāng-siān-shēng èr-shíh-nián-cián shíh zài-měi-guó syué-de-yǔ-yán-syué

c. {湯先生} {二十年前} 是 { # 在美國} {學的語言學}。 (分裂變句)

Tāng-siān-shēng èr-shíh-nián-cián shíh zài-měi-guó syué yǔ-yán-syué de

(台) d. {湯先生} {二十年前} 是 { # 在美國} 學 {語言學} 的。 (分裂句)

Tāng-xiān-shēng èr-shí-nián-qián zài-měi-guó xué yǔ-yán-xué

a. {汤先生} {二十年前} {在美国} 学 {语言学}。

Tāng-xiān-shēng èr-shí-nián-qián xué yǔ-yán-xué shì zài-měi-guó

b. \* {汤先生} {二十年前} 学 {语言学的(地方)} 是 { # 在美国}。

Tāng-xiān-shēng èr-shí-nián-qián shì zài-měi-guó xué-de-yǔ-yán- xué

c. {汤先生} {二十年前} 是 { # 在美国} {学的语言学}。 (分裂變句)

Tāng-xiān-shēng èr-shí-nián-qián shì zài-měi-guó xué yǔ-yán-xué de

(中) d. {汤先生} {二十年前} 是 { # 在美国} 学 {语言学} 的。 (分裂句)

---

a. 湯さんは20年前にアメリカで言語学を学んだ。

b. 湯さんが20年前に言語学を学んだのはアメリカ (だ/であった)。

c. 1、湯さんは20年前にここアメリカで言語学を学んだのだ。

2、湯さんは20年前にあのアメリカで言語学を学んだのだ。

(日) d. アメリカで湯さんは20年前に言語学を学んだのだ。

---

- b. ? |湯さんが20年前に言語学を学んだのは| |# アメリカ (だ／であった)。|  
 c. 1. |湯さんは| |20年前に| |# ここ | = |# アメリカ で言語学を学んだのだ。|  
     2. |湯さんは| |20年前に| |# あの | = |# アメリカ で言語学を学んだのだ。|  
 (日) d. |アメリカ で湯さんは20年前に言語学を学んだのだ。|

例文(8)では陳述文に事柄が起きた場所(在美国)を強調文型に変えてみることにした。

この例文(8)の漢語では、「是」と場所の間に「在」を挿入すると動作・行為・作用がどんな場所において行われたかがさらに強調されることが判明した。

- c. の文型は前に述べたように、このような語順は一般に台湾国語と台湾閩南語では使われない。  
 あえて使う場合は目的語の「言語学」を省略したほうがよいと考えられる。

日本語文の場合は

- d. 例文(7)と同様にアメリカという場所を文の前に持って行けば、単に語順だけの問題ではなく、場所に焦点を当てて強調することができると考えられる。

- 
- Thng-se<sup>2</sup> jī-chap-nī(tang)-chêng tī-Bí-kok oh gú-giân-hak  
 a. |湯先生| |二十年前| |在美國| 學 |語言學|。  
 Thng-se<sup>2</sup> jī-chap-nī(tang)-chêng tī-Bí-kok-oh ê(mih-kiâ<sup>2</sup>) sī gú-giân-hak  
 b. |湯先生| |二十年前| |在美國學| 的(物件)是 |# 語言學|。 (準分裂句)  
 Thng-se<sup>2</sup> sī oh-gú-giân-hak e jī-chap-nī(tang)-chêng tī-Bí-kok  
 c. \* |湯先生| 是 |# 學語言學| 的, |二十年前| 在美國。 (分裂變句)  
 Thng-se<sup>2</sup> oh ê- sī gú-giân-hak jī-chap-nī(tang)-chêng tī-Bí-kok-oh e  
 d. |湯先生| |學| 的 是 |# 語言學| |二十年前| |在美國學| 的。 (分裂句)  
 Thng-se<sup>2</sup> jī-chap-nī(tang)-chêng tī-Bí-kok īs oh-gú-giân-hak e  
 e. \* |湯先生| |二十年前| |在美國| 是 |# 學語言學| 的。 (分裂句)  
 jī-chap-nī(tang)-chêng tī-Bí-kok Thng-se<sup>2</sup> īs oh-gú-giân-hak e  
 (9) (閩) f. |二十年前| |在美國| |湯先生| 是 |# 學語言學| 的。 (分裂句)  
 Tāng-siān-shēng èr-shih-nián-cián zài-měi-guó syué yǔ-yán-syué  
 a. |湯先生| |二十年前| |在美國| 學 |語言學|。  
 Tāng-siān-shēng èr-shih-nián-cián zài-měi-guó syué-de-(dōng sī)-shih yǔ-yán-syué  
 b. |湯先生| |二十年前| |在美國| |學的(東西)| 是 |# 語言學|。 (準分裂句)  
 Tāng-siān-shēng shih syué-yǔ-yán-syué de èr-shih-nián-cián zài-měi guó  
 c. \* |湯先生| 是 |# 學語言學| 的, |二十年前| 在美國。 (分裂變句)  
 Tāng-siān-shēng syué de-shih yǔ-yán-syué èr-shih-nián-cián zài-měi-guó-syué de  
 d. |湯先生| |學| 的 是 |# 語言學| |二十年前| |在美國學| 的。 (分裂句)  
 Tāng-siān-shēng èr-shih-nián-cián zài-měi-guó shih syué-yǔ-yán-syué de  
 e. |湯先生| |二十年前| |在美國| 是 |# 學語言學| 的。 (分裂句)  
 Èr-shih-nián-cián zài-měi-guó tāng-siān-shēng shih syué-yǔ-yán-syué de  
 (台) f. |二十年前| |在美國| |湯先生| 是 |# 學語言學| 的。 (分裂句)

Tāng-xiān-shēng èr-shí-nián-qián zài-měi-guó xué yǔ-yán-xué

- a. |湯先生| |二十年前| |在美國| 学 |語言学|。

Tāng-xiān-shēng èr-shí-nián-qián zài-měi-guó xué-de shì yǔ-yán-xué

- b. |湯先生| |二十年前| |在美國| |学的(東西)| 是 |# 語言学|。 (準分裂句)

Tāng-xiān-shēng shì xué-yǔ-yán-xué de èr-shí-nián-qián zài-měi-guó

- c. \* |湯先生| 是 |# 学語言学| 的, |二十年前| 在美國。 (分裂變句)

Tāng-xiān-shēng xué de shì yǔ-yán-xué èr-shí-nián-qián zài-měi-guó-xué de

- d. \* |湯先生| |学| 的 是 |# 語言学| |二十年前| |在美國学| 的。 (分裂句)

Tāng-xiān-shēng èr-shí-nián-qián zài-měi-guó shì xué-yǔ-yán-xué de

- e. |湯先生| |二十年前| |在美國| 是 |# 学語言学| 的。

Èr-shí-nián-qián zài-měi-guó tāng-xiān-shēng shì xué-yǔ-yán-xué de

- (中) f. |二十年前| |在美國| |湯先生| 是 |# 学語言学| 的。

- a. 湯さんは20年前にアメリカで言語学を学んだ。

- b. 湯さんが20年前にアメリカで学んだものこそ言語学だ。

- c. 言語学を湯さんは20年前にアメリカで学んだ。

- d. 湯さんの専攻は言語学だが、20年前にアメリカで学んだ。

- e. 湯さんが20年前にアメリカで学んだのは言語学だ。

- (日) f. 20年前に湯さんがアメリカにいた時、言語学を学んだのだ。

- b. |湯さんが| (| ) |20年前に| (| ) |アメリカで学んだのは| |# 言語学だ。|

- c. |湯さんは| |20年前に| |アメリカで| |# 言語学を学んだ。|

- d. |湯さんの専攻は| |# 言語学だが|、|20年前に| |アメリカで学んだ。|

- e. |# 湯さんが20年前にアメリカで学んだのは| |# 言語学だ|。

- (日) f. |20年前に| |アメリカで| |湯さんは| |# 言語学を学んだのだ。|

最後に例文(9)の場合は、意図的に“是”と“的”を位置変換させて目的語(言語学)の強調を生み出そうと試みた。

漢語 d. では焦点は二つ(语言学・在美国学)に当てられていると考えられる。さらに助詞の“的”は動詞“学”の後ろ(「在美国学的」)に置かれていることは、述語を名詞化<sup>5</sup>に変えることになって、名詞相当語になると考えられる。

e. の場合はアメリカで学んだのは他の専攻ではなく、言語学だと強調的に説明している。この例文では f. のように動作が起きた時間を文の最初に置き、目的語を文末に置くほうが普通話では一番目的語を強調する自然な文だと考えられる。

日本文の場合は b. の文末に「学んだものこそ言語学」となり、この「こそ」は副助詞でその語を取り立てて、強調する主体の気持ちを表すので、一層「～は～だ」という文より「言語学」が焦点となって目的語を強調することができる。

- c. は「言語学」を文の最初に置くと、目的語の焦点を強調的に表すことができる。

#### おわりに

これまでの考察の結果、“是～的”構文では、“是”・“的”の位置変化により焦点の移動が変わって

くることが明らかになった。それに、“是”・“的”の字句を分裂文・核分裂文・準分裂文に挿入しても、文章の説明や判断は影響を受けず、各々状況・文脈に従って文の情報焦点を明確にして成立することが観察された。即ち、“是～的”構文で、“的”は必ずしも文末に置くとは限らないことが判明した。しかしその場合でも、説明・判断・強調例文では、やはり“的”が文末に用いられたものが一番自然な“是～的”構文になり、話し手の気持ちが正しく表現されて、強調を表すことができると考えられる。

本稿の漢語の例文では“的”が述語となれば、“的”は文の前に“是”がある時、前後呼応して、“是～的”の構文になれば、たとえ位置が変化しても文型と意味は変わらない。しかし強調する語句や文中の焦点は違ってくると観察された。

さらにこれらの例文では「二十年前」という時間が具体的に表わされていないくても、“的”がすでに動作・行為によって起こされた時間が過去のことであると判る。それゆえ、“的”はいつも語気助詞とみなされているが、このように時態助詞として働く機能もあると認めてよいと思われる。同様の分析として、“是～的”構文中の“的”の存在を時間助詞と定義する宋玉柱(1978)がある。

また、漢語の例のb.の(準分裂句)のように、“～的是～”の“的”が“是”の前に置かれると、その前後は対等の関係となる。この“的”は文の主語にもなれると考えられる。

しかもこのような変化は、本来の「是・・・的」構文とは性格が異なる現象で現れるが、強調される焦点は同様であると判断できる。

続いて漢語の例の(6)のd.(7)d.(8)d.(9)c.fの文末に、“学語言学的”という述詞性成分を名詞句に変える機能は、漢語の語法では動賓(動詞+目的語+的)連語になっている。これは興水優(1985)p.212が指摘しているところでもある。<sup>4</sup>

さらに漢語の例文(9)c.e.fのような文型では、“是”+動詞+目的語+“的”の形で、動作の主体・時間・場所・方式・目的などを強調する。“是”は強調する要素の直前に置くが、省略することもできる。

台湾国語において、“準分裂句”の“的”の後ろに付く“人・時間・場所・物”は、修飾節が述べる動作の主体と解釈が可能である。

以上の漢語の例文では、文末に一層語気を強めるため、“啊a / 阿ā”という助詞が用いられても全く違和感がなく、適切だと考えられる。

日本語の場合では、強調的な情報焦点はほとんどの場合、文頭か文末で述べられている。「“是～的”構文における“是”・“的”位置変化による焦点の移動」に合わせる対照訳では、単に「～が(は)～のだ」「～のは～だ」という説明や判断の強調構文は、時にはうまくその焦点を表わすことができず、より強めるために副助詞や指示代名詞などが必要とするものがあるのも観察された。

例文(4)から漢語では目的語焦点では「～のだ」文ではなく「(～のは)(～だ)」しか使えないのに対して、日本語ではどちらもあり得る、という点が判明した。

それは、次のような語順の対照に区別できるのではないかと考えられる。

- A. 是 (焦点) (動詞) 的 (分裂句) → { # (焦点) (動詞) のだ }
- B. (動詞) 的 是 (焦点) (準分裂句) → { (動詞) のは { (焦点) だ }

Aの場合の日本語「#」(焦点)は、「文頭」にはない。むしろ、動詞直前か後ろにある、と言える。一方、中国語で(動詞)的～是 (焦点) の「是」は音韻的に「#」(焦点)であると考えられる。

### 参考文献

- 小泉保2007『日本語の格と文型』大修館書店
- 吳幸芬2009「“是～的”構文の文型と意味における台湾閩南語・台湾国語・中国語・日本語の対照考察」
- 興水優1985『中国語の語法の話』中国語文法概論 光生館
- 張登岐2004『汉语语法问题论稿』安徽大学出版社
- 鄭良偉1997『台、華語的時空、疑問與否定』遠流出版
- 湯廷池1988『漢語詞法句法論集』學生書局
- 島井克之2008『中国語教学(教育・学習)文法辞典』東方書店
- 呂叔湘・牛島徳次・菱沼透2003『中国語文法用例辞典』
- 『日本国語大辞典』第2版第10巻

### 注









- 1 今回の“擺死 chhui-si”と“索死 soh-si”という二つ動詞については、台湾人ネイティブスピーカーの老年・中年・青年三代の二十人をインタビューして確認したものである。
- 2 野田春美(1997:15-6)に「の(だ)」の本質、基本的機能についても多くの研究がある。三上章(1953a)、林大(1964)、佐治圭三(1986b)などは、ごく大まかにいえば、「の(だ)」の本質を、「の」に前接する部分をすでに成立しているものとし、それに「だ」を添えて提出することだと見ている点で共通している。
- 3 湯廷池(1988)國語句子的信息焦點，除了利用節律因素與句尾的位置來強調以外，還可以用特殊的句法結構來指示。在國語語法裡，指示信息焦點的句法結構主要有三種：「分裂句」、「分裂變句」與「準分裂句」。p.131  
湯氏(1988)は、「國語のセンテンスにおける情報焦点は、リズムの要素と句末の位置で強調するほかに、特殊な構文の構造で更に指示することができる。」また、「國語の文法では、情報焦点の構文の構造が主に分裂文(分裂句)・核分裂文(分裂變句)・準分裂文(準分裂句)の3種類に分けられている。」と述べている。
- 4 “的”の後ろに付着する中心語については、熊本大学にいる中国人留學生のネイティブスピーカーを調査して判明したものである。
- 5 名詞化という説について、興水優(1985)『中国語の語法の話』p.211は、「助詞の“的”は、述詞成分を体詞性成分に変えるとき、その述詞性成分の後について名詞相当語をつくる。例えば：買(買う)―買的・便宜(安い)―便宜的」。また、この説は朱德熙(1961)の〈説“的”〉に従って定義さ

れていることでもある。

- 6 奥水優（1985）は、述語性成分を体詞性成分に変える機能は連語についても認められるとしている。  
 例：動賓連語：看电影（映画を見る）—看电影的（映画を見るもの；見たもの）。このような例文は、元の動作・行為を表わすのに対し、その動作・行為の主体になり、あるいはその動作・行為の客体になると考えられる。

### 台湾閩南語八声符号図

以下の図は、台湾羅馬字音八声と台湾の台羅教部研究協會理事長陳泰然先生の現代台語八声音階図を基にして作った。

上平 (陰平)	上聲 (陰上)	上去 (陰去)	上入 (陰入)	下平 (陽平)	上聲 (陽上)	下去 (陽去)	下入 (陽入)
高音 (高平)	強音 (降下)	低音 (低平)	短音 (低止)	有起落 (上升)	強音 (降下)	平平 (中平)	高短 (高止)
1	2	3	4	5	6	7	8
a	á	à	ah	â	ǎ	ā	áh
獅	虎	豹	獐	猴	狗	象	鹿
Sai <sup>1</sup>	Ho <sup>2</sup>	Pa <sup>3</sup>	Pih <sup>4</sup>	Kau <sup>5</sup>	Kiu <sup>6</sup>	Chhio <sup>7</sup>	Lok <sup>8</sup>
							

現代台語の声調は“平上去入”の四声調がさらに“陰陽系統”に分けられ、全部で八声調となる。但し、特別な息調が二つあって、それは一般に迴昇音と輕聲と呼ばれている。

如下：

迴昇音は 声調記号 9 例：“伊 ê 面紅紅紅”，ang<sup>3</sup>ang<sup>7</sup>ang<sup>5</sup> / 彼の顔が真つ赤になった。

輕聲は 声調記号 0 例：“天暗落來”，loh<sup>8</sup>—lai<sup>0</sup> / 暗くなってきた。(降りる)

# A Study of Focus Transfer in the “是 ～ 的” Clause Derived from the Positional Shifts of “是” and “的” .

WU, Hgingfeng

## Abstract

In Chinese grammar, the word “是” is a verb for judgment and its chief function is not only to explain the meanings but also to judge or emphasize the purposes of sentences. However; the word “的” has a variety of functions, including being a structural verb, auxiliary word, and the component of a noun clause consisting of verb, object and modifier.

When “是” and “的” combine together to create a “是～的” clause the word 是 marks the focused element while, the word “的” is always at the end of the sentence. This usage infers an affirmative or an emphasized auxiliary word.

This article mainly discusses the focus in terms of the position of “是” · “的” in a “是～的” clause. Additionally, the comparisons of usages of “是” “的” and their equivalents in Taiwanese, Chinese, Mandarin and Japanese are to be analyzed.